

牛頸区ホームページ : <http://www.kouminkan.info/onojo/ushikubi/>

牛頸区ホームページは大野城市と南コミュニティホームページのリンク集からもご覧になれます

【二月の行事報告】

●高齢者と女性団体合同研修会



二一日、牛頸一組シニアクラブ・牛頸悠々会・生活改善推進会・婦人会・福祉推進委員会と執行部の合同研修会が開催されました。成年後見制度と人権問題を筑紫公証役場の難波氏、福岡法務局筑紫支局の村上氏の二人に講演していただきました。認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方々を保護し支援するのが成年後見制度です。その制度について学びました。また、人権とは誰しもが生まれながらに持つ権利、人が人らしく生きる権利、全ての人が幸せになる権利。今回は法務局の人権擁護活動についてお話しいただきました。人権相談は無料だそうです。百名が参加した研修会、公民館の集会所がほぼ満杯となりました。ご来場有難うございました。女性団体には受付から片付けまでお手伝いいただき感謝です。

●第5回牛頸須恵器窯跡ワークショップ



二三日が最後のワークショップとなりました。この日は窯跡が残る地域で活動中のトラスト協会からも参加があり「整備活用のテーマを考えよう」と3つのグループに分かれて意見を出し発表の形がとられました。大まかなテーマとして3つ「発信」、「つなぐ」、「保存」でした。「発信」については「須恵器のある大野城市」あるいは「大野城市Ⅱ須恵器」というキャッチフレーズを全国に発信していく。

また地元を含め窯跡を周知させる。「つなぐ」は古代の歴史を次世代・未来へと伝え、価値も継承する。また点在している窯跡を結ぶことも含まれます。「保存」は窯跡を残す、整備する(ビクターセンター・資料館)など。その他に、この機会に大野城市を知ってもらおう、古代へロマンを感じてもらおう、地域が誇れるものにする、窯跡を巡るウォーキングコースの整備、発掘調査の見学、牛頸ダムは利用者が多く訪れるので窯跡の拠点となりうるのでは、などなど多くの意見が出ました。5回のワークショップが集約される年3月策定される整備活用計画に反映されることになるでしょう。

【三月の行事予定】

- 二日 公民館運営協議会
- 三日 南コミ芸術発表会
- 九日 臨時隣組長会
- 十日 南コミ ユニカール大会
- 十日 市東地区総合避難訓練
- 一四日 平野中卒業式
- 一四日 食生活改善推進会閉講式
- 一五日 平野小卒業式
- 二十日 牛頸文化部芸術発表会
- 二八日 第5回地域福祉推進委員会
- 二八日 新旧執行部会

【四月の行事予定】

- 五日 区会計監査
- 六日 新旧執行部会
- 六日 評議員会
- 十一日 新隣組長会
- 二一日 通常総会

スエちゃんのお牛頸ばなし

第七十四回 牛頸の民話その一

さて、スエちゃんの話も終盤に入ります。民話は、民間に伝わる口承文化で牛頸にも七話位ありますので順次ご紹介いたします。その多くは昨年亡くなられた雑餉隈の郷土史家赤司岩男先生、横峰の故田中好美先生が取材されてまとめられたものです。

その一、天狗の鞍掛けの松

牛頸村の入り口、今の南ヶ丘四ツ角の少し手前の上が平らな大きな松があつてそこにお酒好きでいたずらの天狗さんがいました。天狗さんは村に入る悪人や病気を見張っていてくれました。ある日、二日市の結婚式に行つてお酒に酔っぱらつた若者が通りかかると、何とそこに見たこともない川が流れていました。若者は、お土産と着物を頭にくくりつけてザブザブと川を泳ぎ始めました。もうすぐ向こう岸へ着こうとした時、「もしもしあんた何ばしよんしゃるとな？」という声に我にかえると若者はやぶのなかでバタバタ手足を動かしていました。天狗にだまされたのです。

また別の日、二日市で温泉に行つたお年寄りが松の木の下までくると、そこに湯気を立てたお風呂がありました。お年寄りは早速着物を脱いでお土産を置いて入りました。「うわあ、よか温泉じゃ、牛頸温泉バイ」。通る人は皆鼻をつまんで笑っています。お年寄りが入っていたのは、畑のドンガメ(肥えだめ、野つば)だったのです。さっきの若者もお年寄りもお土産がなくなっていました。二人共天狗さんに化かされたのです。

またある時、馬に乗った役人の侍が牛頸村の稲の出来具合を調べに来ました。天狗さんが「えいッ!」という侍はコロリと馬から落ちました。もう一度「えい!」というのと、今度は馬の鞍がスルスルと舞い上がつて松の梢にストンと乗りました。天狗さんは鞍にまたがって大喜びです。侍は怒つて天狗に切りつけましたがガツンと刀を折られました。侍がびっくりしていると空が急に黒くなって雨風がひどい大嵐になり雷も光りました。そして雲の間から天狗の顔がのぞいて「アツハツハツハツ」と大声で笑いました。侍は気を失いました。

又、サナボリのために村のお母さんたちが二日市へ酒や肴さかなを買いに行つた帰り、松の下を通つて家に帰ると手には何も持っていません。皆で松の所まで戻ると酒瓶や肴の箱がちゃんと並べてありました。

又ある日村人が松の下を通りかかると「おいおい酒ば少し買ってこい」と天狗から頼まれました。村人が酒を持っていくと翌朝、田んぼには水がいつぱい張られアゼの草もきれいに刈つてありました。天狗さんがお礼をしたのです。ね。



